

# 九州大学病院きらめきプロジェクト

## —— 女性医療人きらめきプロジェクトからのさらなるステップ

きらめきプロジェクトキャリア支援センター 副センター長/九州大学医学部保健学科教授 **橋木 晶子**

平成19年9月から21年3月まで九州大学病院で施行した文部科学省大学改革推進事業「女性医療人きらめきプロジェクト」は本年度から「九州大学病院きらめきプロジェクト」としてさらなるステップへ進みました。これまでの「女性医療人教育実践センター」も「きらめきプロジェクトキャリア支援センター」と改称しました。

これまで、女性の医師・歯科医師・看護師のキャリアの継続を目指した取り組みとして女性医療人ステップアップ外来システムを構築し、非常勤医師・歯科医師として20人以上のスタッフが診療に携わっています。性差医療を取り入れた女性総合外来とともに女性医療

人を活用することにより、医療の現場が全ての医療人にとって働きやすい環境に変わることを目指しました。

学生に対するジェンダー学や性差医学の講義から、休職中の女性医療人の学習のためのeラーニング教材の作成まで幅広い教育・研修支援も行っています。学生との交流会も定着し、女性の医師・歯科医師・看護師とのネットワークも構築できました。この支援を受けた女性医療人は常勤医への復帰、専門医受験資格の取得、大学院の修了とさまざまですが、それぞれのキャリアを継続発展していることと思います。

3年間の文部科学省からの支援の後も九州大学病院がこの取り組みを継続することになり、これからは子育て中の女性医療人だけでなく、男性も含めて広く医療人のキャリアの継続を支援してゆくことになりました。この事が質の高い医療を提供してゆくことにも繋がると考えます。

これからも益々のご支援をよろしくお願いいたします。



第3回学生交流会 講演の様子



第2回スタッフ発表会にて

# 本院におけるクリティカルパスの取り組み

## —— アウトカム志向電子パスの構築と進化

カルテ委員会委員長 CP管理・運営WG 副WG長 **鴨打 正浩** /WG長 **前原 喜彦**

クリティカルパスとは、入院から退院までに行われる診療を疾患ごとに標準化した計画のことを指します。多くの患者さんと共通して実施される検査、投薬、ケアなどを標準化して、無理や無駄なく最良の医療が提供できるように作成されています。もともとは産業界における工程管理技法が医療に応用されたものですが、今日ほとんどの病院で使用されています。

九州大学病院では、済生会熊本病院の協力を得て、平成16年にアウトカム志向パスを導入しました。フォーマットの統一、用語の標準化を行い、当時もあった複数のパスを整理統合しました。アウトカム志向パスは、従来型パスのように画一的な診療計画を一律に強制するのではなく、患者状態によって最適な医療を提供することができ、さらに得られた情報は医療にフィードバックできるように作られています。

多くの病院がパスの電子化で苦しむ中、平成20年2月には全国に先駆けてアウトカム志向パスを完全電子化を実施しました。本院のパスは電子カルテと連携した電子化アウトカム志向パスである点で、先進的な次世代型電子パスと言えます。

現在、91疾患に対する電子パスが作成され、使用数は年間2500例を超え、電子化後も毎年増加を続けています。パスを医療の質や患者サービスの改善、医療の標準化、医療安全の向上、地域医療連携の推進に役立てています。

さらに、病院内のさまざまな医療情報と統合し、情報解析手法を用いて膨大な電子医療情報から臨床現場に有用な情報を抽出する作業を行っています。電子化の利点を最大限に生かすべく、本院の電子パスはさらに次のステージへと進化を続けています。

